



たまなん通信

文責：横森一哲

目標に向けての自分との戦い

令和4年 2022年も、残りあと少しです。毎年恒例の今年1年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が京都の清水寺で発表され、「戦」の文字が選ばれました。

みなさんそれぞれに、「戦」の漢字から様々なことが頭に浮かぶことと思います。わたしは、2学期の始業式で全校児童に話した「目標をもつ」ことが思い浮かびました。それは、今の自分を少しでも高めていこうとすれば、どんな目標を達成させるにも、自分自身との戦いがあると思うからです。次の目標に向かうためには、自分自身を振り返ることも大切です。2学期を振り返りながら、自分の頑張りをきちんと自分自身で認めていくことを大切にしてほしいです。

とても素敵な空間と時間 児童会選挙立会演説会

12月13日に来年度の児童会役員を決めるため、立会演説会が開かれました。「来年度の玉穂南小学校の児童会をこんな児童会にしたい」「自分が当選したら、こんな活動をして、こんな玉穂南小学校にしていきたい」と、7人の立候補者は、自分の明確な目標を立て、立会演説会で自分の考えを十分すぎるほどに伝えていました。7人の立候補者は、自分自身と戦う姿を選挙権のある3年生以上の児童にしっかりと見せてくれました。その姿は、凛としていて、とても立派で、聞いているわたしは背筋が自然と伸びる思いでした。また、コロナ感染対策のためにできなかった教室訪問に代わって行われた「責任者と推薦人による立候補者の紹介等」もとてもすばらしく、学級の一体感を感じました。それらを聞いている3年生以上の児童に目をやると、その姿は、演説や応援をしている候補者らの気持ちに込めている前のめりの真剣な表情でした。目標をもって自分の考えを伝えようとする姿は、このように聞いているものの心をとらえ、素敵な空間と時間を創るものだなあとつくづく感心してしまいました。このようにして、今年度の素晴らしい児童会が来年度も引き継がれ、玉穂南小学校の良い伝統は続いていくのだと強く感じました。

地域の力に支えられ

書道教室

年明け1月には、校内書きぞめ大会が開かれます。今年も、地域の書道教室の先生でいらっしゃる鈴木章安先生に、1時間ずつではありますがすべての学級で、一人一人丁寧にご指導いただきました。鈴木先生は、本校の初代PTA会長であり、現在学校運営協議会の会長でもあります。



まず、学級全体に向けて、黒板を使って、書くときに気をつけることを教えてくださいました。その後、一人一人への指導となりました。児童は、自分の書き上げた作品を鈴木先生の所へもっていき、指導を受けます。「中心に気をつけて」、「左右が同じになるようにここはもっと長く」、

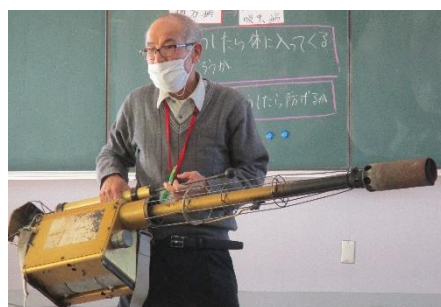


「名前の大きさはいいから、この字とこの字の間はこのくらいにしていこう」と、一人一人にあった指導をしていただきました。低学年には、「ここは、三角になるように」、「ここは、お魚の形になるよ」と分かりやすく楽しくご指導いただきました。子どもたちは、朱書きで指導していただいたものを、自分だけのお手本にしていました。校内書きぞめ大会に向けて、練習を重ねていきます。

地域の病気

日本住血吸虫病(地方病)

「わたしたちの足下には、先人のたたかひの歴史があった!!」の言葉で授業が始まりました。4年生の児童に向けて、本校元校長先生で、現在「地方病教育推進研究会」事務局の遠藤美樹先生が「先人のたたかひの歴史」について教えてくださいました。「地方病はお腹が大きくなる病気」、「その原因は日本住血吸虫という虫」などについて写真を提示しながら教えてくださいました。子どもたちは学習して



いきました。中間宿主であるミヤイリガイの標本も見ることができました。次に「卵→ミラシジウム→ミヤイリガイ(中間宿主)→セルカリア→体内(終宿主)」という住血吸虫の生活史を学ぶと、「先人はどうやってこの病気をなくしたのだろう」と遠藤先生から問われ、周りの友だちと意見を交わしながら考える場面もありました。病気をなくす方法の一つであり実際に使われていた「火炎放射器」を見せてくださいました。友だちと意見交換



をしたり写真や実物を見たりしながら、学ぶことができました。その過程では、杉山なかさんの話(山梨県初の病理解剖を願い出た人)など、先人のすごさに児童は圧倒されていました。もっと知りたいことが次々と出てきて、授業が終わってから、遠藤先生に質問する児童の姿もありました。地域素材の素晴らしさ、地域の方からの生の授業の力強さに驚きます。

異年齢での学び

落ち葉拾い & 縦割り遊び

どちらも異年齢で構成された縦割り班での活動です。本校の縦割り班の児童同士のふれあいでは、穏やかな場面を見ることがとても多いです。高学年の下級生に対する優しい対応と、その上級生についていく様子が見られます。高学年の進んで落ち葉を拾う姿、遊びの中で下級生が活躍できる機会をつくる姿など、上級生の姿に下級生は憧れを持ち、よい伝統として引き継がれていくのだと感じます。

